

開催地名	富山県立山町
開催日時	令和5年9月3日（日） 14：00 ～ 15：45
開催場所	立山町元気交流ステーションみらいぶ 大会議室
語り部	菅野 澄枝 （宮城県仙台市）
参加者	地域住民、関係機関 20 名
開催経緯	第4次立山町男女共同参画プラン（※R3.3月～）における重点課題の一つに「地域防災力の学びと男女共同参画の推進」が掲げられている。災害時の避難所生活における男女間のニーズの違いや避難所運営に対する女性の意見反映の必要性が高まっているが、本町において男女が共に防災の知識を学べる研修や勉強会などを開催したことがなく、本事業を活用させていただき、まずは次に記載する見込まれる効果に期待し、当該課題の解決といたく、本講演会の開催となった。 地域における災害時の避難や避難所生活の運営方法などについて、地域の中でも従前より男性が中心に関わることがほとんどであることから、女性にも防災知識を普及し、また、男性においても女性の視点を取り入れることの重要性を説き、ついでに、女性の積極的な意見及び問題の提示、並びにアイディアを取り入れることで、地域単位での安全・安心な避難所生活の運営につながっていくことを期待する。
内容	（1） 東日本大震災・仙台市宮城野区岩切地区 仙台市宮城野区岩切地区は、海岸線から10キロメートル程度内陸にあるにも関わらず、川を遡上して津波による浸水の被害も一部で受けた。津波の影響はそこまで大きくなかったが、仙台市の中で一番揺れた。ちょうど低学年児童の下校時間での震災。通学路のブロック塀が崩壊、停電になり信号機も止まる、橋も大きく揺れる。低学年児童が自分の判断で帰宅できるだろうか。実際、近隣住民、友達のお母さんなどが下校の手助けをし、子供たちに勇気を与えてくれた。先生方や地域の方々が子供たちを守ろうとした、その行動が子供たちに伝わり、被災した児童の中には学校の先生になっていたりもする。人に影響を与えることは、何気ない行動、何気ない一言が大きな成果になったりもする。地震で色々なことを失ったが、この様に得ることもあった。 また当時は何をしたらよいかわからなかった。誰かがやってくれる、消防が来て助けてくれると思っていた。そして今ほどスマートフォンは普及しておらず、スマートフォンを利用した情報収集も出来ていなかった。テレビやラジオをゆっくり見ることも出来なかった。もし津波等の衝撃映像をあの時見ていたら、心が折れ、避難所運営等出来なかったかもしれない。もちろん情報は必要である。だが知らなかったから、夢中で頑張れたとも思う。 （2） 仙台市地域防災リーダー（SBL） 仙台市では平成24年度より地域防災の担い手を育成する目的で「仙台市地域防災リーダー（SBL）養成講習」を開始した。平常時には顔の見える関係づくり、災害に対する備えの推進（訓練、防災減災講座、啓蒙活動）をし、災害時には地域住民の避難誘

導や救出・救護活動の指揮を行う役割等を期待されている。ただ実際、防災を学ぶこととリーダーになることはイコールではない。防災減災を学ぶことは大切で、何事も知ることから始まる。学んだ上で、回りからリーダーになって欲しいと、そう認められた時にリーダーになれる。是非、皆さんにも女性防災リーダーを目指して欲しい。

実際、岩切地区SBLは地震での避難所開設は1回のみ、殆どは大雨対応である。何かあった時に、気軽に来て欲しいと呼びかけている。避難所のドアを開けたときに、出迎えたい、そこに居たい、そして避難所はこういう所だと思える人を増やしていきたいと活動している。また男だから女だから高齢者だから障害者だからでなく、色々な人に傾ける耳、色々な人に提供できる立場で居たいとも思っている。ただ避難所開設時に冷静な判断は難しく、「SBLは何をやっているの、そんなに偉いの？」などお叱りの言葉を貰うこともあった。理想を口で言うのは簡単、一生懸命だけで責任を負えない行動は駄目で、実践する道筋を伝えられていないといけない。また人づくり、街づくりが基本にあり、日常的に関わりのある人が、災害時にも同じく関われ、いざと言うときに纏まることが出来る。その為にも様々な団体、年代の住民と防災活動を行っている。全てがうまくいくことだけではないが、逃げずに支えていく姿勢である。

(3) 男女参画

2015 国連防災世界会議でとりあげられた私たちのメッセージ「岩切・女性たちの防災宣言 2015」。関わった方の名前を明記することで、責任感も生まれてきた。また「これは違う、本当はこうしたい」と思っても、その決定の場に女性が少ない傾向も多い。主体的に関われるということで自身を持って欲しい、自分の大きさを少しずつ広げて欲しいと思う。

地域というのは、ここでお終いはない。そして防災活動は、学ぶだけでなく、続けていくことが大切である。大切な人を守るために、仲間と共に無理なく、楽しく、息長く。妥協でなく、いいラインを見つけ、地域防災を行っていただきたい。



開催地より

東日本大震災の体験談を交えながら、仙台市地域防災リーダー(SBL)としての活動や、女性が防災関係組織へ参画することの重要性について講話いただいた。

本講演会を受け、本町としても防災に関する意思決定の場における女性参画の推進について取組んでいきたい。